

新見駅周辺まちづくり検討委員会

第4回ワーキンググループ 会議要旨

日 時：令和3年7月21日（水）13：30～16：00

場 所：新見市役所南庁舎3階大会議室

出席者：ワーキンググループ13名（欠席3名）

オブザーバー、事務局

(1) アンケート調査結果について

アンケートの調査結果に関して、事務局から現状を報告。

出席者から発言のあった主な内容は次のとおりです。

○考察については、対象とするフィールドや人を考えて施策へ反映できる形で評価してほしい。

○オール新見の事業に応募し採択を受けた。学生に話を聞いたが駅周辺には消極的な意見であったが、アンケートを見ると関心はあるように感じる。

○広く意見を集約することは重要だが、魅力を発信するには、ある程度とがった意見がないと魅力が薄れてしまうのではないか。

○新見高校生から新見駅ゲートウェイ構想が新見市議会に提出されている。新見駅が幅広い年齢層の市民、観光客などに対し玄関口であり、駅機能の強化、利便性向上、待ち時間を有意義に過ごせるスペースの設置やバリアフリー化など。

(2) まちづくり基本方針（案）について

事務局から基本方針（案）について説明。

出席者から発言のあった主な内容は次のとおりです。

○外と内という考え方をしたとき、新見駅を拠点とした周辺では食事を提供する店、宿泊などの拠点である。外部客・観光客を呼び込みもてなす拠点づくりを考える必要がある。地域資源である石灰を生かした提案、D51の活用、美術館もツールの一つである。駅の利用促進とあわせて外来者対応の部分が見えない。

○駅のバリアフリー化がテーマに上がっているが、新見駅の橋上化はおそらく無理であろう。千屋温泉にもエレベーターを付けたぐらいである。バリアフリー化としてエレベーターの設置を考えてほしい。市がお金をだしてでも整備をしてほしい。

○駅構内に地下通路は冠水する恐れがある。地下で駅裏に延伸することは考えていないと思うが、現状車いすの方だと、JR 職員の介助を受けて線路上を移動している現状がある。ぜひバリアフリー化は進めてほしい。

○ワークショップで「未来」というキーワードが学生らしくてよい、と感じた。今まででは作って終わりというところがあるが、未来につなげていくことを求めているのではないか。SDGs が広く言われているが、みんなが維持し続けられるような要素が入ってこないといけない。

求められる対応の公共施設の老朽化等の対応とあるが、施設が利用しにくいと持続可能性がなくなっていくのでは。老朽化というよりは、サステナビリティの強化など時系列を入れていきたい。表現として、整備することによって○を、という方向が欲しい。動きが方針として出ればよい。

○まちづくりの話をしていることを地域の人知らない。どんどん人が減って時が止まっている感じがある。早く目に見える形で、動いていることを実感できるように具体化して、皆さんに知ってもらいたい。

○商工業者がメリットのあるまちづくりを期待している。やはり地元の努力をバックアップすることが自然ではないか。建物ができて箱ができて終わり、ということがある。駅周辺の方の努力が必要である。

都市計画マスタープランにおいて市の玄関口を見直そう、というのがきっかけだったかと思う。玄関口としてのビジョンが弱いのでは。

アンケートについて、もう一度精査してアンケートの裏に隠れている問題点やメリットを考えて、もう一度基本方針を練り直す必要があると考える。

具体的には、駅を利用する市民目線の方針だと思われるが、来訪者目線の意見を洗い出して、玄関口としての新見駅、その周辺を。進めていけば商工業者の協力は得られていけると思う。

○駅前のまちづくりといいながら、住む人と利用する人の目線は違うと感じた。この基本方針に沿った形で今後実現されていくのだと思うと、広がりを持った表現もありでは。

バリアフリーはまち全体を考えて、観光について考える、などの意見を聞いて、千屋温泉や井倉洞など各種観光資源へ駅前からどうつないでいくのか、そのコアになるのが新見駅である、そういった視点でも基本方針が作っていければ。駅前の人口減少の話があったが、周辺部はさらなる過疎化が進んでいる。町全体をくまなくよくするのは難しい面もあり、新見駅を核として発展させていくことが重要であると感じた。

○人を呼ぼうとする、活性化させようとするエネルギーがいる。この計画を実現するにはかなりのエネルギーがいる。他と違ったとがったもの、という意

見があったが、アンケートの自由記載にとびぬけた意見があるのではないか。
多数意見だけでなくとがった少数意見にも着目を。覚悟を持って街づくりを進
めていかないと取り残される。